

「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒を育てる」

特色ある学校づくりを目指して

佐世保市立宮中学校

所在地 佐世保市城間町338番地1

校長 熊本 直樹

生徒数 45名 学級数 4



1 目的

- (1) 本校の学校教育目標である「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育成」を具現化するため、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を実践する。
- (2) 様々な体験活動をとおして、生徒信条が示す目指す生徒像「われらは考えて行い、健康で節度があり、最後までやり抜く根性を持ち、思いやりがあり、進んで協力する生徒になろう」を目指す。
- (3) 地域に目を向け、高齢者を含めた地域住民や地域産業の担い手との交流事業に力を入れ、地域連携を推進し『開かれた学校づくり』に努める。

2 実践内容

- (1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える体験活動の実施

<実施時期・対象学年> 11月16日(水)～17日(木) 2年生

※コロナ陽性生徒の発生により1日短縮

<活動場所> 今年度は地区内に限らず活動場所やジャンルなどを拡大
全13事業所

(ホテルローレイ、ホテルヨーロッパ、HTBホースランド、梅ヶ枝酒造、深信幼稚園、昭徳こども園、ベストワンマツオ、イオンタウン早岐、東消防署、海上保安庁、ならでは、ジャパネットたかた、宮小学校)

<活動内容> 各事業所において諸活動を実施した。当日に至るまでに、個人で各事業所に電話連絡を行い、事前訪問にて面接を実施した。活動後はそれぞれの事業所での学習成果を、パワーポイント等を使って作成して、学習発表会で発表した。



(2) 高齢化社会に向けた介護・福祉に関する正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施

<実施時期・対象学年>

10月 7日(金) 認知症サポーター養成講座 3年生

10月13日(木) 高齢者・障がい者疑似体験 3年生

10月21日(水) 介護のしごと魅力伝道師講座 3年生

<活動場所> 校内(教室、体育館)

<活動内容> 佐世保市介護人材育成確保対策地域連絡協会に依頼をし、福祉施設などから講師を招聘して活動を行った。認知症サポーター養成講座では、3名の講師を招聘し、誰にでも発症する可能性があることや様々な症状があることを学んだ。高齢者・障がい者疑似体験では、2名の講師を招聘し、介助する側される側の両方の立場を、車椅子を使って体験した。福祉のしごと基礎講座では、2名の講師を招聘し、命の大切さ・尊さとともに、介護の仕事のやりがいについて学んだ。



(3) 地域の史跡等の美化活動や地域の老人会の方との協働作業をととした世代間交流の推進

<実施時期・対象学年> 11月4日(金) 1年生

<活動場所> 宮地区史跡

<活動内容> 宮地区自治協議会の協力を得て、宮地区内の史跡学習に加え、元宮中学校校長である松野廣文先生の講話をいただき、学習を深めた。その後、大村純定公、小佐々弾正公、小佐々甚五郎公の墓石の清掃活動を班別に行った。地区の歴史を見聞きしたり、地域の方々とともに汗を流したりすることで、改めて地域再発見ができ、郷土愛を深めることができた。



(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

6月24日(金)「6・29平和教育 戦争遺構・慰霊碑から考えてみよう」

佐世保市教育委員 松野廣文先生による講話【全学年・保護者】

<実施時期・対象学年> 6月24日(金) 全学年

<活動場所> 校内

<活動内容> 「戦争遺構・慰霊碑から考えてみよう」をテーマに、当市の教育委員でもあり、地元宮地区の歴史にも詳しい松野廣文先生を講師に招き、講演会を行った。地元地区に残る史跡の歴史的意味と戦争の痛みを中学生や保護者にわかりやすく解説していただいた。

(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

①知覧特攻平和会館見学

<実施時期・対象学年> 5月12日(木) 3年生

<活動場所> 鹿児島県知覧特攻平和会館

<活動内容> 語り部の方の講話を聴き、また館内に展示してある写真や遺物隊員が書いた直筆の遺書などの見学を行い、同世代の若者が当時どのように考え、どのような思いでどのような生活をしてきたのか、真剣に考えることができた。

②長崎市内班別平和学習(長崎歴史探訪)

<実施時期・対象学年> 5月19日(木) 2年生

<活動場所> 長崎市内約10か所の平和および歴史関連の史跡をめぐる(原爆資料館、原爆落下中心地、平和公園、大浦天主堂、グラバー園、出島、中華街等)

<活動内容> 2学年21名全員が長崎原爆資料館を見学し、原爆落下中心地で献花を行うことで、核兵器のことを知り、平和について考えることができた。また、日本の窓口を果たした長崎の和漢蘭文化を学ぶため、グラバー園、大浦天主堂を見学した後に、3班にわかれて異なるルートで長崎市内の各所を訪問した。



③人権学習集会

<対象学年> 12月6日(火) 全学年

<活動場所> 体育館 教室

<活動内容> 『長崎県弁護士会法教育センター出前授業』において、佐世保あおぞら法律事務所の弁護士馬場章廣先生をお招きし、憲法や法律に関して・弁護士の仕事(職業講話)・ネットトラブルやネットモラルについて講話をいただいた。

3 成 果

(1) 産業や文化への理解を深め、地域における中学生として果たすべき役割を考える体験活動の実施

①今年度は地区内だけでなく地区外にも範囲をひろげ、13か所において実施した職場体験活動では、その職業に対する専門的な知識や技術が必要であることが体験を通して実感することができた。

②保護者、教職員とは、異なる大人とのコミュニケーションをとることで、学校生活では味わえないものの見方や考え方を深める良い機会となった。

(2) 高齢化社会に向けた介護・福祉に関する正しい知識と実践力を育てる体験活動の実施

①福祉に関する内容に加え、「命」の大切さ・尊さについての講話を通して介護の仕事のやりがい・楽しさについて感じることができた。この講話により介護や福祉に関する今後の学習の意識付けとなった。認知症サポーター養成講座では、予防するためのトレーニング方法を実際に行い、楽しみながら簡単に行えることを学んだ。誰にでも発症する可能性があることから、容易にできるトレーニング方法を覚えておきたいと前向きに考えることができた。

②シニア体験、車椅子体験を通して、介助する側、される側の両方を体験することができお年寄りや、介助が必要な方に寄り添った目線で接することの大切さと身近な存在でもある祖父母に対しても同様に接していきたいという思いを持つことができた。この活動を通し、生徒自身が地域の抱える高齢化の問題について深く考え、高齢者を支える地域のあるべき姿や、若者が取り組むべき活動を具体的にイメージすることができるようになった。体験することにより積極的に活動しようとする意欲を高めることができたことは大きな成果である。

(3) 地域の史跡等の美化活動など、地域の高齢者との協働作業をとおした世代間交流の推進

①地域の高齢者との協働作業を通して、中学生として自分たちができる地域貢献について考えるとともに、生徒一人ひとりの実践力を高めることができた。

11月4日(金)に実施した地域貢献活動では、地域の歴史や文化についての学習を通して、社会科の学習に対する興味関心もさらに高め、地元の貴重な文化遺産の維持・保存に積極的に関わっていかうとする心情を育てることができた。

(4) 各家庭と学校が連携を深めるための家庭教育講座等の実施

- ① 地元地域に史跡をもとに、平和学習を深めていくことに大変意義あった。また慣れ親しんだ地元の有識者を講師として招いたことで、保護者、生徒の双方共に「話がよくわかり聞きやすかった」との評価を得た。

(5) 正しい知識と実践力を育てる人権・平和・同和教育の推進

- ① 鹿児島知覧特攻祈念会館や、長崎原爆資料館、平和公園近辺での訪問・班別自主研修を通して、当時の悲惨さを知るとともに二度と起こしてはいけないという思いを強くすることができた。
- ② 弁護士の先生を招いての人権講座は「SNS等のメディアに関して」や「いじめ」についてを法的な立場から考えることができ、生徒にとっても大きな学習成果となった。